



やさしいところ (思いやり Caring)

正直なところ (誠実さ Honesty)

がんばるところ (責任感 Responsibility)

大切に思うところ (尊敬心 Respect)

2017年5月1日

幼保連携型認定こども園

YMCA 保育園・分園

5月えんだより

5月の聖句：「わたしたちは見えるものではなく、

見えないものに目を注ぎます。」

コリントの信徒への手紙Ⅱ第4章18節

春の暖かな季候に包まれて、外に出かけては、色んな生き物に出会い、植物や土の匂いも感じる季節になりました。新入園の子ども達も少しずつ園での生活に慣れはじめ、泣き声が聴こえては、遊び出し、笑顔もみえるようになりました。小さな子ども達は、ひとつの例ですが、「お父さん、お母さんが帰ってくるのかな？」と不安に思って泣き出し、「お迎えにくるからね！」と声をかけてくださる保護者の皆さんの言葉と思いが伝わり、安心して過ごすようになっていきます。

「離れても必ず迎えに来てくれる」これも大切な「信じる心」の育ちです。そんな、目には見えないものが大切だと今月の聖句は語っています。大人からみると当たり前のことだと思うかもしれませんが、人や物に対する優しさや善意、労わり、そして、ある時には我慢することも生きていく上では大切なことですし、人を信じることは言うまでもありません。

しかし、近年はどうでしょうか？実証すること、裏づけがあること、分かりやすく目につくことや思いの行為を求めることさえ多々あるように感じます。目にみえて分かることの大切は十分理解した上で、もし「目に見えないものは信じない」としたら、私たちの生活は不安な、窮屈な、生き難い未来が拓がるのではないかと思うのです。

子ども達の「いのちの根」を伸ばすこと。これは、当園の保育で共に確認した目標です。根は土の中に広く、深く伸びていきますが見えません。やがて幹が育ち、枝、葉が育ち、花が咲きます。この目に見えない根の育ちは、まさに人間の乳幼児期の成長です。子ども達が、園の集団で生活と遊びを繰り返しながら、喜び、ぶつかりながら子ども達一人ひとりに備えられている力で、根を伸ばしているのです。自分のことしか考えられなかった子ども達が、友の思いに心を寄せ、自分より小さな子ども達を見て支えようとする心も育てていくのです。神様が与えてくださった見えるものと見えないものの世界の両方をみていくことを意識しながら日々の保育を進めていきたいと願います。

5月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	なんだろう	感じる
月の願い	*まわりに目を向け、手をのばす *園生活や保育者に慣れ、安心して過ごす。	*聖書の話や讃美歌に親しむ *まわりの人々、社会、世界の出来事にも目を向けて、めぐみを分かちあう。 *友だちや遊びの中で心を動かし、自ら関わろうとして一歩踏み出す。
讃美歌	ひとりひとりの名をよんで 幼児讃美歌Ⅱ 20	このはなのように こども改 1 1 5